

# 令和7年度「鳥取県農業改良普及所外部評価検討会」の開催結果について

令和8年5月21日  
経営支援課

本県の農業改良普及活動に対して各方面の委員の皆様から評価をいただき、その結果を今後の普及組織体制、普及活動に反映し、よりの確で効果的な現地支援活動を展開することを目的に、以下のとおり、標記検討会を開催しました。この検討会は平成27年度から開催しており、今回が11回目となります。

## 1 外部評価検討会の手順

- (1) 各普及所（県内7カ所）における「地域の意見を聴く会」
  - ① 開催時期：令和8年2月～3月
  - ② 出席者：管内農業者（指導農業士等）、市町村・JA担当課長ほか
  - ③ 内容：各地域における日頃の普及活動や今後の計画に対する意見・要望を聴取した。
- (2) 全県の外部評価検討会
  - ① 開催日：令和8年3月17日（火）
  - ② 場所：鳥取県中部総合事務所 講堂（倉吉市東巖城町）
  - ③ 出席者：評価委員7名（男性3名、女性4名）  
（農業者（指導農業士等）4名、鳥取大学・報道機関・一般消費者代表から各1名）
  - ④ 評価課題：7課題（事前に評価委員が各普及所の候補2～7課題の中から1課題を選定）

## 2 評価結果（※意見等の詳細は、別紙）

評価していただいた7課題はすべて「優れた取組である」「妥当な取組である」と評価された。  
また、個別の課題に対しては、より良い活動となるよう提言等をいただいた。

令和7年度鳥取県農業改良普及所外部評価検討会 評価結果一覧

普及所	区分	評価対象普及活動課題名	普及指導活動の計画・課題設定	普及活動の経過と体制	普及指導活動の成果	合計点	評価
鳥取	総合支援	担い手農家の経営安定 ～(有)D経営体の水稻の生産安定化と軽労化支援～	4.6	4.6	9.1	18.3	◎
八頭	野菜花き	水田転作における白ねぎの生産安定化 ～異常気象に対応した生産技術の推進～	4.3	4.1	7.1	15.6	○
倉吉	総合支援	農作業及び労働環境改善の推進	4.4	4.4	7.7	16.6	◎
東伯	果樹	琴浦梨生産部の新規就農者の育成確保及び園地継承支援	4.1	4.1	8.6	16.9	◎
西部	畜産	健康な和子牛育成の支援	3.8	4.0	7.1	15.0	○
大山支所	野菜花き	産地競争に打ち勝つ大山ブロッコリーの取組支援とスイートコーンの品質向上取組支援～ブロッコリー産地振興への取組～	4.4	4.3	8.0	16.7	◎
日野	作物	日野郡産米のグリーン・イノベーション	4.6	4.3	7.7	16.6	◎

注) 平均の端数処理の関係で、合計点は必ずしも一致しない。

(5点配点) (5点配点) (10点配点) (20点満点)

【点数結果の凡例】 ◎ 16点以上 : 優れた取組である  
○ 12点以上16点未満 : 妥当な取組である  
△ 12点未満 : 成果に乏しい取組である

### (1) 評価の高かった取組

- ◎鳥取：担い手農家の経営安定に(有)D経営体の水稻の生産安定化と軽労化支援に取り組んだ。低収要因の把握と改善策の実施支援等により適切な栽培管理の実施と収量目標を達成した。
- ◎東伯：琴浦梨生産部の新規就農者の育成確保及び園地継承を支援するツールを作成し、生産者数と栽培面積数の減を食い止め、令和7年には念願の販売額10億円突破につながった。

### (2) 評価委員（霜村会長：鳥取大学農学部教授）の総括講評

普及員は県内の農業の持続的な経営のため取り組んでいる。時間の中では語れないところもあったと思う。今後のことを考えると、人材育成が次の課題になる。担い手育成、人脈形成、農業の魅力が伝わらないと人が集まらない。今の農業従事者が豊かな姿を見せなければならない。

## 3 今後の対応

- 今回の結果はHP等で公開し、農家のみならず広く県民の皆様にも普及活動を情報発信する。
- 評価委員の意見をもとに、各普及所の普及活動計画を見直ししながら、より効果的な普及活動となるように努めていく。

【別紙】

## 令和7年度鳥取県農業改良普及所外部評価検討会 評価結果一覧

普及所等組織名； 評価課題名	取り組みの概要	点数	結果	外部評価委員からの主な意見
<b>鳥取；</b> 担い手農家の経営安定 ～(有)D経営体の 水稻の生産安定化 と軽労化支援～	・D経営体は安定経営を続けてきたが、令和2～5年の米価低迷等が経営を直撃した。さらに、栽培技術継承が行えず、令和5年の平均反収は、令和2年以前に比べて約1割減となり、令和2年から資産が急激に減少した。 ・このような状況下でD経営体から経営改善に向けた支援要請があり、経営の柱である水稲部門の増収支援を行うこととなった。また、担当者の短期間での交代や作業面の課題も明らかとなり、併せて軽労化支援にも取り組んだ。	18.3	◎	・目標が明確だった。対応する計画の立案、実践促進に関する指導が大変だったのでは？と推察された。農作業における適宜適切管理の重要性を確認できた。今後、持続的経営を期待する。 ・担い手の定着と確保において効果的と感じた。若年層の職場選びに軽労化は今後ますます重要視される視点となりそう。好事例として他の農家にも波及して欲しい。 ・未だに軽労化が進んでいない農家が潜んでいるのであれば掘り起こしと支援手が急がれる。
<b>八頭；</b> 水田転作における 白ねぎの生産安定化 ～異常気象に対応した 生産技術の推進～	・近年の白ねぎ生産は、異常気象等により計画的な収穫出荷が難しくなっている。水田転作の白ねぎ栽培は、排水及び高温干ばつ時のかん水が対策となるが、実施生産者は少ない。 ・水田転換の白ねぎ増収と土壌特性に応じた排水・かん水の指標を作成するため、八頭町と鳥取大学との連携協議研究を開始し、八頭町内の白ねぎほ場の土壌特性の把握を行い、生産者自身が土壌と排水対策に関心を持つよう意識醸成を図る取組を進めた。	15.6	○	・ほ場によって土壌の特性が異なりそれぞれに違った対策が必要となる点で難しい課題。それぞれに対応した処方箋を提供されており調査手法の他の作物への転用も期待できる。 ・サブソイラー、レインガン等の技術導入の試みは高く評価できる。 ・土壌特性把握を継続することで、情報を集約し、本情報を活用することで安心・適切な生産が可能になると思う。
<b>倉吉；</b> 農作業及び労働 環境改善の推進	・梨は、省力化・作業改善の取組が必要、熱中症対策は労働安全衛生規則改正対応が必要、農業者は日頃、身体(運動器)に負担が多く、運動器疾患の知識習得や予防対策実施が必要、新規就農者はコスト削減が必要一方で、離農者や既存の生産者には未利用の生産資材処分困っている実態がある。 そこで、梨作業の省力化・効率化及び労働環境改善支援、農作業安全と体調管理の意識啓発、不要となった道具・資材を新規就農者等次世代へ譲り渡す仕組みづくりを実施した。	16.6	◎	・生産者を色々な角度からサポートしてくれる取組。労働環境や健康診断は、自分たちが重要だと思っていないのに実はとても必要なこと。これからも根気強く農家に声かけして欲しい。 ・新規就農のためにも、労働環境改善と資材譲渡の仕組みは緊喫の課題であり評価する。 ・不要な農具や資材のマッチングシステムは良い取り組みだと思う。より広域で行って欲しい。 ・熱中症対策は今後も求められる課題。成果を可視化することが難しいが、今後も継続対応をお願いしたい。
<b>東伯；</b> 琴浦梨生産部の 新規就農者の育成 確保及び園地 継承支援	・平成23年に琴浦梨生産部が発足、平成30年に生産者を対象に梨栽培の今後についてアンケート調査を実施、10年間で生産者数は80%減少、栽培面積は67%減少という厳しい将来予測。令和元年「琴浦梨の将来を考える会」が発足、担い手の確保・育成、園地継承などを検討してきた。また、最近、県内の各産地(野菜、果樹)で産地主体型の取組がスタート。梨は、高単価傾向となり、産地主体型で新規就農者確保の取り組みを進める追い風となった。そこで、新規就農者を確保する体制整備と新規就農者の確保、既存園の園地継承の推進(園地評価方法の確立とマッチングの実施)を行った。	16.9	◎	・コロナで休止していた「将来を考える会」が再開し、新たに何か活動していこうと前向きになっている。これからも普及所が支援、コーディネートして活発な活動をして鳥取梨を盛り上げて頂きたい。 ・これからの取組が継続して行われればもっと活発な梨園地が作られていくと思います。 ・新規就農者の確保に関する重要な課題であると思う。園地を評価しバトン制度を確立した点を高く評価した。 ・新規就農者が確保できた好事例として他産地のモデルになる。他への応用を考えると、なぜ琴浦で就農が進んでいるのか要因分析してほしい。
<b>西部；</b> 健康な和子牛育 成の支援	・牛肉消費の低迷、生産費高止まりから肥育農家の導入意欲が減退。全国的に和子牛価格は低下し、管内和牛生産の中心である繁殖経営に悪影響を及ぼしている。そうした中でも、発育良好な子牛は高く取引される傾向にあり、日齢体重の向上が推奨されている。本地域では繁殖和牛の盛んな地域として、健康で発育良好で過肥でない牛づくりを行い、斉一性を高めるための取組が必要である。そこで、子牛発育改善意識啓発、和子牛せり会場での体高測定、重点農家には個々に設定した飼養管理の改善状態の維持確認と効果検証を行った。	15.0	○	・取組によって農家が一定の感触を得られたことが何よりの成果。農家が自発的に測定を行い継続されるのが良いのではと思う。 ・生産者全体の底上げというねらいは普及所の本質的な役割と合致しており評価できる。 ・色々な生産現場での暑熱対策が必要になったと感じる。毎年厳しくなってきたので、他の農家にも対策の普及をお願いしたい。 ・鳥取和牛は世界的に注目されている。産地の維持発展を大いに期待している。鳥取の地の利を活かした特徴的な飼育の取り組みがあるとよい。
<b>大山支所；</b> 産地競争に打ち 勝つ大山ブロッ コリーの取組支援 とスイートコー ンの品質向上取 組支援～ブロッ コリー産地振興 への取組～	大山ブロッコリー部会は、冷蔵庫導入や共同集出荷施設整備により収穫作業改善が進んだ反面、生産者減少、気象災害などにより販売額が伸び悩んでいる。このため、産地振興プランを策定し、令和6年4月からプラン取組を開始した。本プランは「反収向上、単価アップ、生産力維持」を目標とし、その推進に「6専門部」を立ち上げ活動を開始した。普及所は従来からの「技術課題」と、新たに6専門部の活動を支援する「担い手課題」を設定し課題解決に取り組んだ。	16.7	◎	・心、意欲、連携そういったソフト部分に取り組まれているのは素晴らしいと思う。 ・6つの専門部がそれぞれ活動内容を工夫していると感じる。女性が活発に動き元気に活動しておられる姿はとても良いと感じた。それぞれの課題にこれからも真摯に取り組んでいただきたい。 ・生産者同士での自発的な取組が、どうすれば継続的に自走できるか、主体的に産地全体のことを考えてもらうための支援が必要。
<b>日野；</b> 日野郡産米のグ リーン・イノー ベーション	日野郡は良食味米産地として知られている。高付加価値化等を目的に、JA特別栽培米グループ2組織を中心とした戦略により販売価格が維持されてきた。しかし、取り巻く環境変化による収益性の不安定化や高齢化により生産意欲の維持が難しくなっている。また、近年は米の品質が低下し、土づくり等の高温対策技術の指導徹底が重要である。そこで、高温耐性があり高収量が狙える「星空舞」の生産安定化と作付転換、新品種の導入、肥料体系の見直しを進める。加えて、関係機関との連携を強化し、水稲栽培技術の指導体制強化を図る。	16.6	◎	・これからもおいしいお米作り支援に取り組んでいただきたい。後継者作り、元気で農業を続けていけるよう儲かる農業の指導をお願いしたい。 ・米価高騰や各地でのブランド乱立の中、産地として品質維持するための目標にコンテスト入賞を設定したのは大変だと思うが評価したい。 ・活動により奥大山プレミアム特別栽培米の知名度向上や水田の維持にまで効果が及ぶと良い。 ・ブランド化にはやはり県内知名度向上も重要。道の駅などで食べることができれば、目当てに訪れる県外客も増えるのではないかな。

【点数結果の凡例】 ◎ 16点以上

:優れた取り組みである

○ 12点以上16点未満 :妥当な取り組みである

△ 12点未満

:成果に乏しい取り組みである